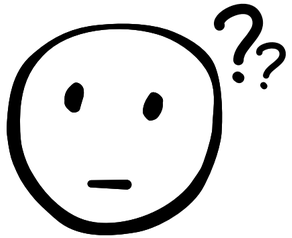
難民・貧困国の人々が
スマホを持っている理由について

世界銀行によると、今も7億5000万人が極度の貧困にあり、
1日1.90ドル（約200円）以下で生き延びる生活を強いられているとう…

難民や開発途上国のニュースやドキュメンタリーを
観ている時に、ふと思うこと…

みんなスマホ持ってるなぁ



実は、世界の最も貧しいといわれる地域でも、
ほとんどの人が携帯電話を持っています。
開発途上国の成人の83%が携帯電話を持っているというデータがあります。
(出典：ピュー・リサーチ2019年)
また、全世界人口の半数以上がインターネットに接続できる
スマートフォンを利用しています。
(出典：Global Digital reports 2018年)

食べ物や衣類、電気水道などのインフラ、
ましてや安心して寝る場所もないような人々が、
なぜ携帯電話(スマートフォン)を持てるのだろうか?
子供の教育よりもスマホが優先なのだろうか...

開発途上国の人々にとってのスマホを持つ理由

1.基本的な携帯電話は思っているより安い

開発途上国では、携帯電話は基本的なモデルであることが多く、
実は、インフラを必要とする固定電話よりもはるかに安価です。

メキシコ(平均月収570ドル) では、携帯電話を月額わずか3ドルのプランで購入できます。
旧ソ連国アルメニア(平均月収692ドル)では7ドルから10ドル、
中米国ニカラグア(平均月収30ドル)では20ドル、ミャンマー(平均月収112ドル)では30ドル、
西アフリカ諸国(平均月収50〜460ドル)では15ドルから60ドルです。
中古電話はさらに安く、多くの雇用主が古い電話をスタッフにプレゼントします。
通話料金も手頃に設定されており、
モンゴルでは通信会社が12歳未満の親子間の無料通話サービスを提供していたり、
ホンジュラスでは100分の通話時間がたったの 1ドルです。

「アフリカは、一人当たりの電話の数が、ほかより多い大陸として知られています。
とても矛盾していますよね。ほとんどの電話は非常に低価格のもので、
遠く離れた村でさえ、ほとんどすべての人や家族が携帯電話を持っています」
（ワールド・ビジョン・西アフリカのアンリ・コリー氏）

2.離れて暮らす家族を携帯電話でつなぐ

雇用機会が限られている地域では、多くの家族が家を離れて暮らし働いており、
連絡を取り合う唯一の方法は電話をかけることです。

多くの国では、海外で働く労働者用に通信会社がアメリカやメキシコに国際電話を安くかけられるようなサービスを提供しています。学校の学期中に子どもが親戚の家や下宿に泊まるのが一般的な国では、親は携帯電話を使って子どもと連絡を取っています。

「中国の農村地域では、すべての世帯が固定電話を利用できるわけではありません。
ほとんどの世帯は携帯電話を持っています。これは、携帯電話のネットワークがほぼどこからでもアクセスできるためです。多くの親が町の外で働いていて、家に残っている子どもたちと連絡を取るために携帯電話を使います」
（ワールド・ビジョン中国のメイベル・ツァン氏）

「携帯電話は贅沢品ではなく必需品です。
親は安全上の理由から、子どもにシンプルな携帯電話を持たせます。
いつでも子どもと連絡を取ることができるので、子どもの安全を確認することができます」
（ワールド・ビジョン・アルメニアのマデレン・ムラデレン氏）

3.携帯電話を使って子どもたちはオンラインで学ぶことができる

新型コロナウイルス感染症の影響が出る前から、
インターネットは開発途上国を含む世界中の子どもたちにとって、
重要な学習ツールになっています。

ドミニカ共和国やエルサルバドルでは、
家庭でコンピュータにアクセスできない子どもたちが、宿題をするために
親の携帯電話で安価なインターネットパッケージを使用するのは一般的なことです。

「ドミニカ共和国のほとんどのコミュニティでは、携帯電話は子どもの母親か父親のものですが、子どもはそれを使って宿題をします。地域の子どもたちは、宿題で調べ物をする時、インターネットのつながったコンピュータにアクセスできないため、彼らの両親は、携帯電話でインターネットにつながれるよう一日あたり1ドルの無制限プランを購入しています」
（ワールド・ビジョン・ラテンアメリカ・中米のシャロン・ロドリゲス氏）

難民にとってのスマホ

4.「難民はなぜスマホを持っているの？」という素朴な疑問

シリア難民のニュースでは船上でスマートフォンで撮影をしている人がいたり、
上陸してすぐにwi-fiのネットワークを探す人の姿がおなじみの光景です。

「なぜ難民なのにスマホを持っているの？」そんな疑問を持つ人もいるでしょう。
それは日常でスマホを使っていた人が、ある日突然難民になるということを示しています。

また、彼らがスマホを持つ理由は、必要な時に必要な情報を手に入れるためであり、
そのことは難民も私たちも同じなのだと言えます。

たとえば、死と隣あわせの旅の途中で撮った写真は、
難民申請を行う際の証明材料のひとつになります。また、スマホのGPS機能は、
避難の道のりで大きな役割を果たしてくれることはいうまでもありません。
さらに、先に同ルートを辿った仲間と情報交換をしたり、
旅の途中ではぐれた家族と、アプリで連絡を取りながら目的地で再会するといったことも、
スマホがあるからこそ可能になることだと言えます。

5.スマホの普及と難民たちに起こった変化

大勢のシリア難民たちがとりあえずヨーロッパを目指した理由。

①情報

例えばドイツに行くと、難民申請をすれば、アパートを世話をしてくれる。
とりあえず住む場所が用意され、日本円で大体4万円ぐらいの生活費が出る。
そして、働く場所まで斡旋してくれる。
「ドイツはいいぞ！」ということを、スマホで知る(知らせる)。
「それならば、ヨーロッパに行こうじゃないか！」と、
大勢のシリア難民がヨーロッパを目指すようになった。

②充電などの支援

スマホの一番の問題点は、すぐ充電が切れてしまうことですが、
実は、難民の人たちを助けようというボランティア達が、
あちこちにスマホの充電ステーションをつくっていて
「どうぞ、スマホを充電してください」という支援活動をしています。
それによって難民でもスマホを充電をすることができます。

③GPSで迷わない

スマホだったらGPSで、今自分がどこにいるか、どこに行けばいいかということがすぐわかる。
例えば、ハンガリーが国境線の警備を厳しくして、なかなか入れないとなっても
どんどん行き先を変えて(陸路だから)迂回して行くことが可能になる。
こうして大勢の難民たちが、スマホを頼りに動くようになった。

「故郷から離れた場所に住んでいる人が母親に会って話そうと思ったら7日間かかる。今すぐ母親と話せる道具があったら、どれだけありがたいか。どれだけの金と時間の節約になるだろう」。

（アフリカを携帯電話だらけにした実業家モ・イブラヒムの言葉）

スマホのGPS機能は、避難の道のりで大きな役割を果たしてくれます。さらに、仲間と情報交換をしたり、旅の途中ではぐれた家族と、アプリで連絡を取りながら目的地で再会するといったことも、スマホがあるからこそ可能になったと言えます。

いまや、携帯電話は水道や電気よりも必要なライフラインになってしまったかもしれませんね。

※商用・営利目的の資料ではなく、社内発表用の資料です。

※個人的な見解や解釈を含んでいる場合もございますがご容赦ください。